

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 看護学部 看護学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）の対応関係について、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

（1）ディプロマ・ポリシーについて、DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる」ことを掲げているが、「情報通信技術を正しく活用」することに関して具体的にどのような「情報通信技術」の活用を想定しているのか不明確であることから、カリキュラム・ポリシーとの対応関係の妥当性や当該資質・能力の修得に必要な授業科目が適切に配置されているか判断することができない。このため、想定している「情報通信技術」を明らかにするとともに、DP7とカリキュラム・ポリシーとの対応関係、及び当該資質・能力の修得に必要な授業科目が適切に配置されていることについて、明確かつ具体的に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。

（2）ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の p.13～14 で示されている CP4により配置すると説明がある科目のうち、例えば、「基礎看護学実習Ⅰ」は「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料8 看護学部カリキュラムマップ」を確認すると、DP3と強い関連があると示されている。このため、DP3はCP4とも関連があるように見受けられるが、同書類の「資料7」ではDP3とCP4の対応関係が明示されていないことから、ディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているとは判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、図や表を用いつつ、改めて明確に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。

（3）アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見1への対応を踏まえて、本学科の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

【入学者選抜】

3. 本学の入学者選抜について、社会人・帰国生徒を対象とした「特別選抜」を設けた上で募集人員を2名としているが、社会人と帰国生徒を分けて選抜を行うのか、分けずに併せて選抜を行うのか判然としないことから、明確にすること。その上で、社会人と帰国生徒を分けずに併せて選抜を行う場合、受験資格が異なり、バックグラウンドも大きく異なることが想定される両者を公平・公正に評価・判定できるのか疑義があることから、選抜方法の妥当性について具体的に説明すること。
(改善事項)・・ 3 1

【教育研究実施組織】

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を基幹教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として基幹教員が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。(是正事項)・・ 3 4

【その他】

5. 「教員名簿」の調書番号13の教員は「看護研究実習」を担当することになっているが、当該科目は基本計画書の「教育課程等の概要」や「教員個人調書」において見受けられないことから、適切に修正するとともに、書類間の整合性を確認すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 6

(是正事項) 看護学部 看護学科

1. 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）の対応関係について、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
 - (1) ディプロマ・ポリシーについて、DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる」ことを掲げているが、「情報通信技術を正しく活用」することに関して具体的にどのような「情報通信技術」の活用を想定しているのか不明確であることから、カリキュラム・ポリシーとの対応関係の妥当性や当該資質・能力の修得に必要な授業科目が適切に配置されているか判断することができない。このため、想定している「情報通信技術」を明らかにするとともに、DP7とカリキュラム・ポリシーとの対応関係、及び当該資質・能力の修得に必要な授業科目が適切に配置されていることについて、明確かつ具体的に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。
 - (2) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」のp.13～14で示されているCP4により配置すると説明がある科目のうち、例えば、「基礎看護学実習Ⅰ」は「設置の趣旨等を記載した書類（資料）」の「資料8 看護学部カリキュラムマップ」を確認すると、DP3と強い関連があると示されている。このため、DP3はCP4とも関連があるように見受けられるが、同書類の「資料7」ではDP3とCP4の対応関係が明示されていないことから、ディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているとは判断することができない。このため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係について、図や表を用いつつ、改めて明確に説明した上で、必要に応じて適切に改めること。
 - (3) アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見(1)について再度検討を行った結果、DP7に対応したカリキュラム・ポリシーを明確にするためにカリキュラム・ポリシーを追加することとした。以下、その経緯・理由について述べる。

まず、DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる」は統合的学習経験と創造的思考の学修成果として設定した。社会基盤がネットワークでつながり、情報通信技術の保健医療福祉分野への導入が進む中で、看護学基礎教育で獲得したICTに関する知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力として捉えた。しかし、審査意見(1)にあるように、具体的にどのような「情報通信技術」の活用を想定しているのか不明確であった。また、カリキュラム・ポリシーとの対応関係が明確でなかった。審査意見を踏まえ、まず想定している「情報通信技術」の活用について述べる。

想定している「情報通信技術」の活用は、①様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出し、問題の発見・解決等に向けて適切かつ効果的にコンピュータを活用する基本的技術、②保健医療福祉分野で導入が推進されている医療情報システム、地域医療情報連携支援システム、在宅医療・介護に関する情報の共有システム、災害・救急現場での広域災害・救急医療情報システム等の活用、③看護の分野で活用する医療・看護情報の特徴を踏まえた上でのデータの活用、文献検索等である。したがって、DP7は、これらの「情報通信技術」を看護実践の場で正しく活用し、情報を共有するとともに問題意識をもって情報を収集・分析・考察するなど、保健医療福祉分野における情報通信技術の活用拡大に対応し、将来に亘り看護を探究する能力を獲得することである。

これらを踏まえ、この度、科目の追加と配当年次の見直しを行う。上記②を想定した科目が、専門科目において「看護情報学」の1科目（1単位）（シラバスは別添資料1のとおり）しか配置していなかったため、専門教育科目の看護の統合分野に「情報通信技術と看護」（1単位。配当年次4年次後期。必修科目）（シラバスは別添資料2のとおり）を新たに追加する。これに伴い、卒業に必要な単位数を、124単位から125単位に変更する。

さらに、学びの順序性を考慮し段階的に履修できるよう、配当年次の見直しも行う。基盤教育科目の『情報・数理』の分野を学び、「看護情報学」を履修することとし、そのため、「看護情報学」の配当年次を2年次前期に変更する。新たに追加する「情報通信技術と看護」は、専門教育科目の臨地実習において医療機関内や地域医療連携の場におけるICT活用の経験を基に、ICTの利活用の拡大に伴い重要となる看護の役割について考察し、看護の探究につなげるため、4年次後期に配当することとした。

次にDP7に対応するカリキュラム・ポリシーが明確でなかったことから、カリキュラム・ポリシーの見直しを行った。

① DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる」に対応し、必要な資質や能力を修得するためのカリキュラム・ポリシーをCP5として、「保健医療福祉分野における情報通信技術（ICT）を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。」と設定し、追加する。

② CP5を新しく設定したために、CP1の『情報・数理』を、CP3の「看護を探究し創造的に思考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、」を削除する。

③ CP3の教育方法について記述した「講義・演習では、授業形態に応じてICTの活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。」を削除し、CP6として教育方法と

学修成果の評価について設定する。よって、見直し後のカリキュラム・ポリシーは以下の通りとなる。

(見直し後のカリキュラム・ポリシー)

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。

CP1 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。

CP2 看護の対象(個人・家族・集団・地域社会)を多角的な視点から理解し、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うために、専門基礎教育科目は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「薬理学」「栄養と代謝」や社会保障制度に関連した科目などを系統的に配置します。

CP3 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。

CP4 臨地実習では、地域に密着した公立大学の特性を活かし、「暮らしと地域を知る実習」をはじめ、下関及び周辺地域で臨地実習を行うことにより、地域住民の健康を考える力の基盤を培います。また、多様な保健医療福祉の場において、看護の専門性を理解し、多職種と連携・協働する力を身につけるために、3年次の臨地実習の最後に「多職種連携実習」を配置します。さらに、4年次の「看護の統合実習」では、自ら実習課題を設定し、実践することで看護専門職者としての倫理観・使命感、看護実践力を高めていく自己研鑽力を養います。

CP5 保健医療福祉分野における情報通信技術(ICT)を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。

CP6 講義・演習では、授業形態に応じてICTの活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた

成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。

DP7に対応するCP5を新しく設定したことに伴い、CP5に明示された「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」のシラバスの授業概要、到達目標及び授業内容を見直し、上記で述べた「情報通信技術」の活用について具体的に記載した。修正後のシラバスは、別添資料3（看護研究入門）、別添資料4（看護研究演習）、別添資料5（看護の統合実習）のとおりである。

さらに、DP7に深く関連する科目の修得を図るため、卒業要件の見直しを行う。

具体的には、「外国語12単位以上（必修科目8単位）及び情報・数理2単位以上を含む基盤教育から15単位以上」としていたが、DP7で想定する「情報通信技術」の活用のひとつである「様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出し、問題の発見・解決等に向けて適切かつ効果的にコンピュータを活用する基本的技術」を身につけるために、「情報・数理」の科目群のうち「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」から4単位以上の修得を卒業要件とする。これに伴い、情報・数理を含む基盤教育からの卒業必要単位数を17単位以上とするとともに、リベラルアーツ及び下関学からの修得単位数を10単位以上（教養教育10単位以上）に改める。

また、DP7で想定する「情報通信技術」の活用のひとつである「看護の分野で活用する医療・看護情報の特徴を踏まえた上でのデータの活用」を身につけるために設置する「看護情報学」を担当する教員は、基幹教員以外の教員であるが、本学が令和6年4月に設置したデータサイエンス学部のうち、ヘルスデータサイエンスを専門とするデータサイエンス学部の基幹教員である。当該教員は、Graduate Certificate（生物統計学）、理学修士（統計学）、博士（医学）の学位を有しており、また、医療・研究機関・IT/製薬系企業等との共同研究の経験もあることから、「看護情報学」の担当教員として問題はない。「情報通信技術と看護」は保健医療福祉分野における情報通信技術の活用の実際を取り上げ、看護の役割について考察するため、5人の基幹教員（教授）がオムニバスで担当する。

審査意見（2）について、修正した新しいカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップの整合性を確認し、ディプロマ・ポリシーと新カリキュラム・ポリシーの対応関係の見直しを行い、「養成する人材像および3つのポリシーの相関」の図を修正した。その経緯・理由について説明する。

まず、新しいカリキュラム・ポリシーに対応させたカリキュラムマップの見直しについては、DP4「保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる」に関連する科目として、「看護学概論」「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ」「ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ」「精神ヘルスケア概論」「地域・在宅ヘルスケア概論」「公衆衛生看護学概論」「情報通信技術と看護」は看護専門職の役割について学ぶことから関連する科目として追加した。

DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる」に対応したカリキュラム・ポリシーを新しく設定したことから、DP7に強く関連する科目として「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ」

「情報リテラシー」「コンピュータ活用Ⅱ」「プログラミング」「看護情報学」「看護研究入門」「看護研究演習」とし、新たに「情報通信技術と看護」を追加した。さらに関連する科目として「多職種連携論」「精神ヘルスケア概論」「地域・在宅ヘルスケア概論」「地域・在宅ヘルスケア実習」「公衆衛生看護学実習」「多職種連携実習」は地域医療連携ネットワーク等に関連した学びをすることから追加した。

DP8「地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる」に関連する科目として、地域看護分野に配置している「精神ヘルスケア概論」「地域・在宅ヘルスケア概論」「精神ヘルスケア方法論Ⅰ」「精神ヘルスケア実習」をあげていなかったために追加修正した。

次に、カリキュラムマップの見直しを基に審査意見（3）を踏まえ、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、さらにアドミッション・ポリシーとの対応関係を確認し、図「養成する人材像及び3つのポリシーの相関」を見直し修正した。

まず、ディプロマ・ポリシーと関連する科目の配置に対応したカリキュラム・ポリシーと対応関係があるとして線で結び表示した。

DP1「多様な人々とその生活や社会・文化を理解するための幅広い教養を身につけている。」は、基盤教育科目と教養教育科目から構成しており、CP1と対応関係がある。

DP2「看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎知識を修得している。」は、専門基礎教育科目と専門教育科目から構成しており、CP2とCP3と対応関係がある。

DP3「看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。」は、専門教育科目の講義科目・演習科目・臨地実習科目で構成しており、CP3とCP4と対応関係がある。

DP4「保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。」は、専門教育科目の講義科目・演習科目・臨地実習科目で構成しており、CP3とCP4と対応関係がある。

DP5「人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。」は、専門教育科目の講義科目・演習科目・臨地実習科目で構成しており、CP3とCP4と対応関係がある。

DP6「自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。」は、専門教育科目の臨地実習科目や「看護研究入門」や「看護研究演習」で構成していることから、CP4とCP5と対応関係がある。

DP7「情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。」は、CP5と対応関係がある。

DP8「地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる」は、教養教育科目の『下関学』『外国研修』、専門教育科目の看護の統合分野の「国際保健看護学」、地域看護分野の臨地実習科目「暮らしと地域を知る実習」「公衆衛生看護学実習」等で構成していることからCP1とCP3・CP4と対応関係がある。

さらに、アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの対応関係を確認し、カリキュラム・ポリシーと関連のあるアドミッション・ポリシーを線で結び表示した。

CP1は、基盤教育及び教養教育科目の全分野から幅広く履修するには、基礎学力や学習習慣、論理

的な思考、人や社会への関心、地域の保健医療福祉に貢献したいという思いが必要なことから、AP1・AP2・AP3・AP5と対応関係がある。

CP2は、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うためには基礎学力や学習習慣、論理的な思考が必要なことから、AP1・AP2と対応関係がある。

CP3は、専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するための学びには、基礎学力や学習習慣、論理的な思考、看護職を志し意欲的に学ぶことが必要なことから、AP1・AP2・AP4と対応関係がある。

CP4は、臨地実習では、地域住民の健康を考える力の基盤を培い、看護の専門性を理解し、多職種と連携・協働する力を身につけるには、論理的な思考、良好な人間関係、看護職を志し意欲的に学ぶこと、地域の保健医療福祉に貢献したいという思いが必要であることから、AP2・AP3・AP4・AP5と対応関係がある。

CP5は、情報通信技術を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけ、看護を探究し創造的に思考する力を養うには、論理的な思考、看護職を志し意欲的に学ぶことが必要であることから、AP2・AP4と対応関係がある。

なお、CP6は教育方法及び学習成果の評価について記述しているので、ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーとの対応は表示していない。

(新旧対照表) 基本計画書、シラバス、学則(案)、設置の趣旨等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類(資料)

新					旧				
基本計画書1ページ					基本計画書1ページ				
略					略				
教育 課程	講義	略	計	卒業要件単位数	教育 課程	講義	計	略	卒業要件単位数
	112 科目	略	165 科目	125 単位		111 科目	略	164 科目	124 単位
略					略				
基本計画書6ページ(教育課程等の概要) 別添資料6のとおり					基本計画書6ページ(教育課程等の概要) 別添資料6のとおり				
基本計画書9ページ(教育課程等の概要)					基本計画書9ページ(教育課程等の概要)				
卒業・修了要件及び履修方法				略	卒業・修了要件及び履修方法				略
必修科目 102 単位、選択科目は基盤教育から 9 単位以上(うち『外国語』から 4 単位以上、『情報・数理』のうち「コンピュータ科学」「コンピュータ活用 I」「情報リテラシー」「コンピュータ活				略	必修科目 101 単位、選択科目は基盤教育から 7 単位以上(うち「外国語」から 4 単位以上、「情報・数理」から 2 単位以上)、教養教育のうち「リベラルアーツ」及び「下関学」から 12 単位以上、				略

<p>用Ⅱ」「プログラミング」から4単位以上)、教養教育のうち『リベラルアーツ』及び『下関学』から10単位以上、『基盤看護』及び『臨床看護』から4単位以上を修得し、125単位以上を修得すること。</p> <p>保健師国家試験受験資格を得るためのコースを選択した学生は、上記のほかに、健康行動科学入門、健康行動科学方法論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、疫学・保健統計、公衆衛生看護学実習、健康政策論の合計14単位を修得すること。</p> <p>(履修登録の上限：24単位(半期))</p>		<p>「基盤看護」及び「臨床看護」から4単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。</p> <p>保健師国家試験受験資格を得るためのコースを選択した学生は、上記のほかに、健康行動科学入門、健康行動科学方法論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、疫学・保健統計、公衆衛生看護学実習、健康政策論の合計14単位を修得すること。</p> <p>(履修登録の上限：24単位(半期))</p>																			
<p>基本計画書 35 ページ (授業科目の概要) 別添資料 7 のとおり</p>		<p>基本計画書 30 ページ (授業科目の概要) 別添資料 7 のとおり</p>																			
<p>シラバス 104 ページ 看護研究入門 別添資料 8 のとおり</p>		<p>シラバス 104 ページ 看護研究入門 別添資料 8 のとおり</p>																			
<p>シラバス 107 ページ 看護の統合実習 別添資料 9 のとおり</p>		<p>シラバス 107 ページ 看護の統合実習 別添資料 9 のとおり</p>																			
<p>シラバス 109 ページ 看護研究演習 別添資料 10 のとおり</p>		<p>シラバス 109 ページ 看護研究演習 別添資料 10 のとおり</p>																			
<p>シラバス 111 ページ 情報通信技術と看護 別添資料 11 のとおり</p>																					
<p>下関市立大学学則 (案) 11 ページ (卒業) 第39条 本学に4年(編入学した者については2年とし、再入学した者については第25条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目の履修によって次の表に定める単位数を修得した者について、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。</p> <table border="1" data-bbox="215 1854 798 2000"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>略</td> <td>略</td> <td>略</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td>125単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	単位数	略	略	略	看護学部	看護学科	125単位		<p>下関市立大学学則 (案) 11 ページ (卒業) 第39条 本学に4年(編入学した者については2年とし、再入学した者については第25条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目の履修によって次の表に定める単位数を修得した者について、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。</p> <table border="1" data-bbox="853 1854 1436 2000"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>単位数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>略</td> <td>略</td> <td>略</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td>124単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	単位数	略	略	略	看護学部	看護学科	124単位	
学部	学科	単位数																			
略	略	略																			
看護学部	看護学科	125単位																			
学部	学科	単位数																			
略	略	略																			
看護学部	看護学科	124単位																			

2 略	2 略
<p>設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ</p> <p>I 設置の趣旨及び必要性</p> <p>2. 設置の必要性</p> <p>(4) 3つのポリシー</p> <p>2) 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。</p> <p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> <p>2. 略</p> <p>3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバル</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ</p> <p>I 設置の趣旨及び必要性</p> <p>2. 設置の必要性</p> <p>(4) 3つのポリシー</p> <p>2) 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。</p> <p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』『情報・数理』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> <p>2. 略</p> <p>3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。<u>看護を探究し創造的に思</u></p>

<p>な視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。</p> <p>4. 略</p> <p>5. <u>保健医療福祉分野における情報通信技術 (ICT) を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT 活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。</u></p> <p>6. <u>講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</u></p>	<p><u>考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。</u></p> <p>4. 略</p> <p>5. 学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 9 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>1. 卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程平成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>略</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 9 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>1. 卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程平成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>略</p>

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

略

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。
2. 略
3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。
4. 略
5. 保健医療福祉分野における情報通信技術（ICT）を正しく活用できる基礎的な知識・技

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

略

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』『情報・数理』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。
2. 略
3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。看護を探究し創造的に思考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。講義・演習では、授業形態に応じてICTの活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。
4. 略

<p>術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT 活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。</p> <p>6. 講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</p>	<p>5. 学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 15 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>4. 各科目区分の科目構成とその理由</p> <p>略</p> <p>③ 専門基礎教育</p> <p>1～2 年次に「スタートアップゼミ」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生学」「薬理学」「栄養と代謝」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護情報学」「保健医療福祉行政論」「多職種連携論」、3 年次に「疫学・保健統計」が配置され、人体の基本的な成り立ち、健康に関する予防医学、疾病とその回復の促進といった看護実践の基礎となる知識を学ぶ。また、社会保障制度の意義や、保健医療福祉の場で連携・共同する各専門職の役割を理解する。授業科目は必修科目 13 科目 23 単位、選択科目 1 科目 2 単位が開講される。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 15 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>4. 各科目区分の科目構成とその理由</p> <p>略</p> <p>③ 専門基礎教育</p> <p>1～2 年次に「スタートアップゼミ」「看護情報学」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生学」「薬理学」「栄養と代謝」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「保健医療福祉行政論」「多職種連携論」、3 年次に「疫学・保健統計」が配置され、人体の基本的な成り立ち、健康に関する予防医学、疾病とその回復の促進といった看護実践の基礎となる知識を学ぶ。また、社会保障制度の意義や、保健医療福祉の場で連携・共同する各専門職の役割を理解する。授業科目は必修科目 13 科目 23 単位、選択科目 1 科目 2 単位が開講される。</p>

<p>④ 専門教育 略</p> <p>『看護の統合』では、各領域に共通する事項や各領域の臨地実習を通じての学びを深めるため、「看護管理と医療安全」「看護研究入門」「看護研究演習」「情報通信技術と看護」「災害看護」「国際保健看護学」の科目が配置されており、また、臨地実習科目として「多職種連携実習」「看護の統合実習」が配置されている。授業科目は必修科目 8 科目 11 単位が開講される。</p>	<p>④ 専門教育 略</p> <p>『看護の統合』では、各領域に共通する事項や各領域の臨地実習を通じての学びを深めるため、「看護管理と医療安全」「看護研究入門」「看護研究演習」「災害看護」「国際保健看護学」の科目が配置されており、また、臨地実習科目として「多職種連携実習」「看護の統合実習」が配置されている。授業科目は必修科目 7 科目 10 単位が開講される。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 17 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>5. 授業科目を主要授業科目として設定する考え方 略</p> <p><主要授業科目とディプロマ・ポリシーの相関表> ※表は別添資料 12 のとおり</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 17 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>5. 授業科目を主要授業科目として設定する考え方 略</p> <p><主要授業科目とディプロマ・ポリシーの相関表> ※表は別添資料 12 のとおり</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 22 ページ</p> <p>V 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>3. 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、外国語 12 単位以上（必修科目 8 単位）及び情報・数理 4 単位以上（ただし、「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ」「情報リテラシー」「コンピュータ活用Ⅱ」「プログラミング」から 4 単位以上修得する必要がある。）を含む基盤教育から 17 単位以上、リベラルアーツ及び下関学から 10 単位以上を含む教養教育 10 単位以上、専門基礎教育から 23 単位以上（必修科目 23 単位）、専門教育においては基盤看護及び臨床看護から 36 単位以上（必修科目 32 単位）、子どもと家族の看護、地域看護及び看護の統合から 39 単位以上（必修科目 39 単位）を修得し、合計 125 単位以上を修得することとした。</p> <p>略</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 21 ページ</p> <p>V 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>3. 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、外国語 12 単位以上（必修科目 8 単位）及び情報・数理 2 単位以上を含む基盤教育から 15 単位以上、リベラルアーツ及び下関学から 12 単位以上を含む教養教育 12 単位以上、専門基礎教育から 23 単位以上（必修科目 23 単位）、専門教育においては基盤看護及び臨床看護から 36 単位以上（必修科目 32 単位）、子どもと家族の看護、地域看護及び看護の統合から 38 単位以上（必修科目 38 単位）を修得し、合計 124 単位以上を修得することとした。</p> <p>略</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（資料 7「養成する</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（資料 7「養成する</p>

人材像及び3つのポリシーの相関) 別添資料13のとおり	人材像及び3つのポリシーの相関) 別添資料13のとおり																																																														
設置の趣旨等を記載した書類(資料8「看護学部 カリキュラムマップ」) 別添資料14のとおり	設置の趣旨等を記載した書類(資料8「看護学部 カリキュラムマップ」) 別添資料14のとおり																																																														
設置の趣旨等を記載した書類(資料9「看護学部 カリキュラム概要図」) 別添資料15のとおり	設置の趣旨等を記載した書類(資料9「看護学部 カリキュラム概要図」) 別添資料15のとおり																																																														
設置の趣旨等を記載した書類(資料10「看護学部 看護師及び保健師の履修モデル」) 看護学部 看護師 履修モデル(履修単位 <u>125</u>) 1年前期 (<u>23</u> 単位)	設置の趣旨等を記載した書類(資料10「看護学部 看護師及び保健師の履修モデル」) 看護学部 看護師 履修モデル(履修単位 <u>124</u>) 1年前期 (<u>24</u> 単位)																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 I a</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 I b</td><td>2</td></tr> <tr><td>コンピュータ科学</td><td><u>2</u></td></tr> <tr><td>アカデミックリテラシー</td><td>1</td></tr> <tr><td>倫理</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康と運動</td><td>2</td></tr> <tr><td>日本国憲法</td><td>2</td></tr> <tr><td>下関の産業とみらい</td><td>2</td></tr> <tr><td>●公衆衛生学</td><td>2</td></tr> <tr><td>●スタートアップゼミ</td><td>1</td></tr> <tr><td>●人体の構造と機能 I</td><td>2</td></tr> <tr><td>●看護学概論</td><td>2</td></tr> <tr><td>ケアリング</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計単位数</td><td><u>23</u></td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 I a	2	英語 I b	2	コンピュータ科学	<u>2</u>	アカデミックリテラシー	1	倫理	2	健康と運動	2	日本国憲法	2	下関の産業とみらい	2	●公衆衛生学	2	●スタートアップゼミ	1	●人体の構造と機能 I	2	●看護学概論	2	ケアリング	1	合計単位数	<u>23</u>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 I a</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 I b</td><td>2</td></tr> <tr><td>アカデミックリテラシー</td><td>1</td></tr> <tr><td>経営学</td><td><u>2</u></td></tr> <tr><td>倫理</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康と運動</td><td>2</td></tr> <tr><td>日本国憲法</td><td>2</td></tr> <tr><td>下関の産業とみらい</td><td>2</td></tr> <tr><td>●公衆衛生学</td><td>2</td></tr> <tr><td>●スタートアップゼミ</td><td>1</td></tr> <tr><td>●看護情報学</td><td><u>1</u></td></tr> <tr><td>●人体の構造と機能 I</td><td>2</td></tr> <tr><td>●看護学概論</td><td>2</td></tr> <tr><td>ケアリング</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計単位数</td><td><u>24</u></td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 I a	2	英語 I b	2	アカデミックリテラシー	1	経営学	<u>2</u>	倫理	2	健康と運動	2	日本国憲法	2	下関の産業とみらい	2	●公衆衛生学	2	●スタートアップゼミ	1	●看護情報学	<u>1</u>	●人体の構造と機能 I	2	●看護学概論	2	ケアリング	1	合計単位数	<u>24</u>
科目名	単位																																																														
英語 I a	2																																																														
英語 I b	2																																																														
コンピュータ科学	<u>2</u>																																																														
アカデミックリテラシー	1																																																														
倫理	2																																																														
健康と運動	2																																																														
日本国憲法	2																																																														
下関の産業とみらい	2																																																														
●公衆衛生学	2																																																														
●スタートアップゼミ	1																																																														
●人体の構造と機能 I	2																																																														
●看護学概論	2																																																														
ケアリング	1																																																														
合計単位数	<u>23</u>																																																														
科目名	単位																																																														
英語 I a	2																																																														
英語 I b	2																																																														
アカデミックリテラシー	1																																																														
経営学	<u>2</u>																																																														
倫理	2																																																														
健康と運動	2																																																														
日本国憲法	2																																																														
下関の産業とみらい	2																																																														
●公衆衛生学	2																																																														
●スタートアップゼミ	1																																																														
●看護情報学	<u>1</u>																																																														
●人体の構造と機能 I	2																																																														
●看護学概論	2																																																														
ケアリング	1																																																														
合計単位数	<u>24</u>																																																														
2年前期 (<u>21</u> 単位)	2年前期 (<u>20</u> 単位)																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 II a</td><td>2</td></tr> <tr><td>●看護情報学</td><td><u>1</u></td></tr> <tr><td>●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)</td><td>2</td></tr> <tr><td>●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 II a	2	●看護情報学	<u>1</u>	●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2	●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・	2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 II a</td><td>2</td></tr> <tr><td>●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)</td><td>2</td></tr> <tr><td>●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・感覚器)</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 II a	2	●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2	●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・感覚器)	2																																												
科目名	単位																																																														
英語 II a	2																																																														
●看護情報学	<u>1</u>																																																														
●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2																																																														
●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・	2																																																														
科目名	単位																																																														
英語 II a	2																																																														
●臨床病態学Ⅲ(消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2																																																														
●臨床病態学Ⅳ(運動器、腎・泌尿器、皮膚・感覚器)	2																																																														

感覚器) ●ヘルスアセスメント 2 ●看護過程 1 ●看護倫理 1 ●ライフステージとヘルスケア概論 I 2 ●老年ヘルスケア方法論 I 1 ●ライフステージとヘルスケア概論 II 2 ●精神ヘルスケア概論 1 ●地域・在宅ヘルスケア概論 1 ●公衆衛生看護学概論 2 ●基礎看護学実習 I (集中) 1 合計単位数 21	●ヘルスアセスメント 2 ●看護過程 1 ●看護倫理 1 ●ライフステージとヘルスケア概論 I 2 ●老年ヘルスケア方法論 I 1 ●ライフステージとヘルスケア概論 II 2 ●精神ヘルスケア概論 1 ●地域・在宅ヘルスケア概論 1 ●公衆衛生看護学概論 2 ●基礎看護学実習 I (集中) 1 合計単位数 20																																						
4年後期 (8単位) <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>●がん看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>救急看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>感染看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>●家族看護学</td><td>1</td></tr> <tr><td>●情報通信技術と看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>●災害看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>●国際保健看護学</td><td>1</td></tr> <tr><td>●看護研究演習</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計単位数</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	●がん看護	1	救急看護	1	感染看護	1	●家族看護学	1	●情報通信技術と看護	1	●災害看護	1	●国際保健看護学	1	●看護研究演習	1	合計単位数	8	4年後期 (7単位) <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>●がん看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>救急看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>感染看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>●家族看護学</td><td>1</td></tr> <tr><td>●災害看護</td><td>1</td></tr> <tr><td>●国際保健看護学</td><td>1</td></tr> <tr><td>●看護研究演習</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計単位数</td><td>7</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	●がん看護	1	救急看護	1	感染看護	1	●家族看護学	1	●災害看護	1	●国際保健看護学	1	●看護研究演習	1	合計単位数	7
科目名	単位																																						
●がん看護	1																																						
救急看護	1																																						
感染看護	1																																						
●家族看護学	1																																						
●情報通信技術と看護	1																																						
●災害看護	1																																						
●国際保健看護学	1																																						
●看護研究演習	1																																						
合計単位数	8																																						
科目名	単位																																						
●がん看護	1																																						
救急看護	1																																						
感染看護	1																																						
●家族看護学	1																																						
●災害看護	1																																						
●国際保健看護学	1																																						
●看護研究演習	1																																						
合計単位数	7																																						
設置の趣旨等を記載した書類 (資料 10「看護学部 看護師及び保健師の履修モデル」) 看護学部 保健師 履修モデル (履修単位 139) (履修単位：保健師のみの履修科目 14 単位) 1 年前期 (22 単位) <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 I a</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 I b</td><td>2</td></tr> <tr><td>コンピュータ科学</td><td>2</td></tr> <tr><td>アカデミックリテラシー</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 I a	2	英語 I b	2	コンピュータ科学	2	アカデミックリテラシー	1	設置の趣旨等を記載した書類 (資料 10「看護学部 看護師及び保健師の履修モデル」) 看護学部 保健師 履修モデル (履修単位 138) (履修単位：保健師のみの履修科目 14 単位) 1 年前期 (23 単位) <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>英語 I a</td><td>2</td></tr> <tr><td>英語 I b</td><td>2</td></tr> <tr><td>アカデミックリテラシー</td><td>1</td></tr> <tr><td>経営学</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	科目名	単位	英語 I a	2	英語 I b	2	アカデミックリテラシー	1	経営学	2																		
科目名	単位																																						
英語 I a	2																																						
英語 I b	2																																						
コンピュータ科学	2																																						
アカデミックリテラシー	1																																						
科目名	単位																																						
英語 I a	2																																						
英語 I b	2																																						
アカデミックリテラシー	1																																						
経営学	2																																						

スポーツ実践 A	1
健康と運動	2
日本国憲法	2
下関の産業とみらい	2
●公衆衛生学	2
●スタートアップゼミ	1
●人体の構造と機能 I	2
●看護学概論	2
ケアリング	1
合計単位数	<u>22</u>

スポーツ実践 A	1
健康と運動	2
日本国憲法	2
下関の産業とみらい	2
●公衆衛生学	2
●スタートアップゼミ	1
●看護情報学	<u>1</u>
●人体の構造と機能 I	2
●看護学概論	2
ケアリング	1
合計単位数	<u>23</u>

2 年前期 (21 単位)

科目名	単位
英語 II a	2
●看護情報学	<u>1</u>
●臨床病態学Ⅲ (消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2
●臨床病態学Ⅳ (運動器、腎・泌尿器、皮膚・感覚器)	2
●ヘルスアセスメント	2
●看護過程	1
●看護倫理	1
●ライフステージとヘルスケア概論 I	2
●老年ヘルスケア方法論 I	1
●ライフステージとヘルスケア概論 II	2
●精神ヘルスケア概論	1
●地域・在宅ヘルスケア概論	1
●公衆衛生看護学概論	2
●基礎看護学実習 I (集中)	1
合計単位数	<u>21</u>

4 年後期 (9 単位)

科目名	単位
●がん看護	1
救急看護	1

2 年前期 (20 単位)

科目名	単位
英語 II a	2
●臨床病態学Ⅲ (消化器、代謝・内分泌、血液・造血器、免疫・アレルギー)	2
●臨床病態学Ⅳ (運動器、腎・泌尿器、皮膚・感覚器)	2
●ヘルスアセスメント	2
●看護過程	1
●看護倫理	1
●ライフステージとヘルスケア概論 I	2
●老年ヘルスケア方法論 I	1
●ライフステージとヘルスケア概論 II	2
●精神ヘルスケア概論	1
●地域・在宅ヘルスケア概論	1
●公衆衛生看護学概論	2
●基礎看護学実習 I (集中)	1
合計単位数	<u>20</u>

4 年後期 (8 単位)

科目名	単位
●がん看護	1
救急看護	1

<p>感染看護 1</p> <p>●家族看護学 1</p> <p>●<u>情報通信技術と看護</u> 1</p> <p>●災害看護 1</p> <p>●国際保健看護学 1</p> <p>●看護研究演習 1</p> <p>(保) 健康政策論 1</p> <p>合計単位数 9</p>		<p>感染看護 1</p> <p>●家族看護学 1</p> <p>●災害看護 1</p> <p>●国際保健看護学 1</p> <p>●看護研究演習 1</p> <p>(保) 健康政策論 1</p> <p>合計単位数 8</p>	
<p>設置の趣旨等を記載した書類（資料 29「時間割・教室割（案）」）</p> <p>春学期 木曜日 <u>5限目</u> 講義室（1）</p> <p><u>2年</u> 看護情報学</p> <p>中上 裕有樹</p> <p>秋学期 木曜日 <u>3限目</u> <u>2階講義室</u></p> <p><u>4年</u> <u>情報通信技術と看護</u></p> <p><u>金岡 麻希ほか</u></p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（資料 29「時間割・教室割（案）」）</p> <p>春学期 木曜日 <u>4限目</u> 講義室（1）</p> <p><u>1年</u> 看護情報学</p> <p>中上 裕有樹</p> <p>（追加）</p>		

(是正事項) 看護学部 看護学科

2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見1への対応を踏まえて、本学科の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1について再度検討を行い、DP7に対応したカリキュラム・ポリシーを新たに設定した。よって、設置の趣旨等を記載した書類に記載したカリキュラム・ポリシーを以下のように修正する。

設置の趣旨等を記載した書類

I 設置の趣旨及び必要性／2 設置の必要性／(4) 3つのポリシー／2) 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) 及び

IV 教育課程の編成の考え方及び特色／1. 卒業認定・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) と教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。
2. 看護の対象(個人・家族・集団・地域社会)を多角的な視点から理解し、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うために、専門基礎教育科目は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「薬理学」「栄養と代謝」や社会保障制度に関連した科目などを系統的に配置します。
3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。
4. 臨地実習では、地域に密着した公立大学の特性を活かし、「暮らしと地域を知る実習」をはじめ、

下関及び周辺地域で臨地実習を行うことにより、地域住民の健康を考える力の基盤を培います。また、多様な保健医療福祉の場において、看護の専門性を理解し、多職種と連携・協働する力を身につけるために、3年次の臨地実習の最後に「多職種連携実習」を配置します。さらに、4年次の「看護の統合実習」では、自ら実習課題を設定し、実践することで看護専門職者としての倫理観・使命感、看護実践力を高めていく自己研鑽力を養います。

5. 保健医療福祉分野における情報通信技術（ICT）を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。
6. 講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。

次に、カリキュラム・ポリシーを修正したことから、CP1 から CP3 まで及び CP5 のカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程編成に変更が生じたので、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程編成の考え方を以下のように改める。

設置の趣旨等を記載した書類

IV 教育課程の編成の考え方及び特色／3. カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程編成の考え方

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。

これを踏まえ、1～2年次にかけて基盤教育科目と教養教育科目を配置する。

具体的には、「外国語」では英語を必修科目としながらも、本学が立地する下関市が地理的に東アジアとの玄関口に位置しており、既存の経済学部では第一外国語として中国語、韓国語も履修できることから、中国語、韓国語、さらにフランス語、ドイツ語も学べるように配置する。リベラルアーツでは、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、現代に

生きる社会人として必要な幅広い教養と深い洞察力を養うために、5つの分野の科目を配置した。また、本学が立地する関門地域を知るために「下関学」を配置する。

2. 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うために、専門基礎教育科目は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「薬理学」「栄養と代謝」や社会保障制度に関連した科目などを系統的に配置します。

これを踏まえ、1年次では「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生学」「薬理学」「栄養と代謝」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、人体の基本的な成り立ち、健康に関する予防医学、疾病とその回復の促進といった看護実践の基礎となる知識を学ぶ。2年次では「臨床病態学Ⅲ・Ⅳ」のほか「保健医療福祉行政論」を配置し、1年次で学んだ知識をもとに各器官の疾病とその回復の促進を学ぶとともに、社会保障制度の意義やしくみを理解する。

3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。

これを踏まえ、1年次では「看護学概論」「ヘルスプロモーション」などを配置し、看護学の主要な概念について学ぶ。2年次では「看護過程」「看護倫理」「ヘルスアセスメント」などを配置し、適切な看護を実践するために必要な理論、基礎的な看護技術、倫理を学ぶ。また、2年次から3年次にかけて、成人ヘルスケア、老年ヘルスケア、小児ヘルスケア、ウイメンズヘルスケア、精神ヘルスケア、地域・在宅ヘルスケア、公衆衛生看護学に関してそれぞれの概論及び方法論を学び、3年次後期からの臨地実習に向けた知識と技能の習得を行う。また、保健医療福祉の場における連携・協働について学ぶ「多職種連携論」を配置する。さらに、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように4年次に「国際保健看護学」を配置する。

4. 臨地実習では、地域に密着した公立大学の特性を活かし、「暮らしと地域を知る実習」をはじめ、下関及び周辺地域で臨地実習を行うことにより、地域住民の健康を考える力の基盤を培います。また、多様な保健医療福祉の場において、看護の専門性を理解し、多職種と連携・協働する力を身につけるために、3年次の臨地実習の最後に「多職種連携実習」を配置します。さらに、4年次の「看護の統合実習」では、自ら実習課題を設定し、実践することで看護専門職者としての倫理観・使命感、看護実践力を高めていく自己研鑽力を養います。

これを踏まえ、1年次から段階的に臨地実習を配置する。地域住民の健康を考える力の基盤を養うため、臨地実習は、病院からではなく、人々の普段の暮らしを知るところからスタートする。1年次では、「暮らしと地域を知る実習」を配置し、学生が地域の人々やその活動を知り、また情報を収集することで、健康を高める支援を考える。2年次は、前期・後期に「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」を、3年次後期からは「成人ヘルスケア実習Ⅰ・Ⅱ」、「老年ヘルスケア実習Ⅰ・Ⅱ」、「小児ヘルスケア実習」、「ウイメンズヘルスケア実習」、「精神ヘルスケア実習」を病院や施設で実施する。また、3年次の各ヘルスケア実習の終了後に「多職種連携実習」を配置し、実習の場（病棟や施設）の枠を超えて、多職種との連携の在り方について広く探索し、その中で看護師としての役割を学ぶ。4年次では、「地域・在宅ヘルスケア実習」を配置し、地域包括ケアシステムの実態を知るとともに、在宅での療養を必要とする人とその家族への看護を学ぶ。最後に臨地実習のまとめとして「看護の統合実習」を配置し、これまでの各領域の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、学生自身が設定した課題に基づき実習を行う。さらに、保健師コース選択の学生は、同じく4年次前期に「公衆衛生看護学実習」を配置する。

5. 保健医療福祉分野における情報通信技術（ICT）を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。

これを踏まえ、1・2年次では情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質である情報活用能力の育成のために基盤教育科目『情報・数理』の科目群に、コンピュータの活用を学び、ICTに対応できるように、「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」といった情報処理能力を養成する科目を選択必修科目として配置する。これらの科目を学び、医療・看護情報の特徴、情報活用、医療現場における実践的な取り組みについて理解するために、2年次に「看護情報学」を配置する。さらに看護の探究にいかに関与し活用するかを理解するために3年次に「看護研究入門」を、4年次に「看護研究演習」「看護の統合実習」を配置する。また3年次および4年次の専門教育科目の臨地実習での経験を踏まえて、保健医療福祉分野における情報通信技術の活用拡大に伴い重要となる看護を探究するために4年次後期に「情報通信技術と看護」を配置する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ	設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ
I 設置の趣旨及び必要性	I 設置の趣旨及び必要性

2. 設置の必要性

(4) 3つのポリシー

2) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。

2. 略

3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。

2. 設置の必要性

(4) 3つのポリシー

2) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を基盤教育科目、教養教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の4つの区分で構成し、学生が主体的に選択でき、さらに学年の進行とともに学びを深めることができるカリキュラムを編成する。

1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』『情報・数理』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。

2. 略

3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。看護を探究し創造的に思考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際

<p>4. 略</p> <p>5. <u>保健医療福祉分野における情報通信技術 (ICT) を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT 活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。</u></p> <p>6. <u>講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</u></p>	<p>保健看護学」を配置します。<u>講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。</u></p> <p>4. 略</p> <p>5. <u>学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</u></p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 9 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>1. 卒業認定・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) と教育課程平成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>略</p> <p>【教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)】</p> <p>略</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 9 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>1. 卒業認定・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) と教育課程平成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)</p> <p>略</p> <p>【教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)】</p> <p>略</p>

<p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> <p>2. 略</p> <p>3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。</p> <p>4. 略</p> <p>5. <u>保健医療福祉分野における情報通信技術(ICT)を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」</u></p>	<p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』『<u>情報・数理</u>』、教養教育科目は『リベラルアーツ』(人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生)、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> <p>2. 略</p> <p>3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。<u>看護を探究し創造的に思考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、</u>地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。<u>講義・演習では、授業形態に応じてICTの活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。</u></p> <p>4. 略</p>
--	--

<p><u>「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、<u>「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」</u>で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT 活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。</u></p> <p>6. <u>講義・演習では、授業形態に応じて ICT の活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</u></p>	<p>5. <u>学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに基づき、科目ごとに定めた成績評価基準により厳格に評価を行います。ポートフォリオの導入により学修を可視化し、学生が自己評価できるようにします。</u></p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 12 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>3. カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程編成の考え方</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> </div> <p>これを踏まえ、1～2年次にかけて基盤教育科目と教養教育科目を配置する。</p> <p>具体的には、「外国語」では英語を必修科目としながらも、本学が立地する下関市が地理的に東</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 12 ページ</p> <p>IV 教育課程の編成の考え方</p> <p>3. カリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程編成の考え方</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 幅広い教養を身につけ、多様な人々とその生活や社会・文化を理解できる基盤を培うために、基盤教育科目と教養教育科目を配置します。基盤教育科目は『外国語』、『<u>情報・数理</u>』、教養教育科目は『リベラルアーツ』（人文科学/社会科学/自然科学/生命・健康科学/人権・共生）、『下関学』の科目群を配置し、全分野から幅広く履修することで看護の対象者の多様な価値観を豊かな心と柔軟な心で捉え、多様性を受け入れることができる人間力を培います。</p> </div> <p>これを踏まえ、1～2年次にかけて基盤教育科目と教養教育科目を配置する。</p> <p>具体的には、「外国語」では英語を必修科目としながらも、本学が立地する下関市が地理的に東</p>

アジアとの玄関口に位置しており、既存の経済学部では第一外国語として中国語、韓国語も履修できることから、中国語、韓国語、さらにフランス語、ドイツ語も学べるように配置する。リベラルアーツでは、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、現代に生きる社会人として必要な幅広い教養と深い洞察力を養うために、5つの分野の科目を配置した。また、本学が立地する関門地域を知るために「下関学」を配置する。

2. 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うために、専門基礎教育科目は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「薬理学」「栄養と代謝」や社会保障制度に関連した科目などを系統的に配置します。

これを踏まえ、1年次では「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生学」「薬理学」「栄養と代謝」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、人体の基本的な成り立ち、健康に関する予防医学、疾病とその回復の促進といった看護実践の基礎となる知識を学ぶ。2年次では「臨床病態学Ⅲ・Ⅳ」のほか「保健医療福祉行政論」を配置し、1年次で学んだ知識をもとに各器官の疾病とその回復の促進を学ぶとともに、社会保障制度の意義やしくみを理解する。

アジアとの玄関口に位置しており、既存の経済学部では第一外国語として中国語、韓国語も履修できることから、中国語、韓国語、さらにフランス語、ドイツ語も学べるように配置する。「情報・数理」では、コンピュータの活用を学び、ICTに対応できるように、「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」といった情報処理能力を養成する科目を配置する。リベラルアーツでは、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、現代に生きる社会人として必要な幅広い教養と深い洞察力を養うために、5つの分野の科目を配置した。また、本学が立地する関門地域を知るために「下関学」を配置する。

2. 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、科学的根拠に基づいた良質な看護を実践する基盤を培うために、専門基礎教育科目は「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「薬理学」「栄養と代謝」や社会保障制度に関連した科目などを系統的に配置します。

これを踏まえ、1年次では「看護情報学」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「公衆衛生学」「薬理学」「栄養と代謝」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、人体の基本的な成り立ち、健康に関する予防医学、疾病とその回復の促進といった看護実践の基礎となる知識を学ぶ。2年次では「臨床病態学Ⅲ・Ⅳ」のほか「保健医療福祉行政論」「多職種連携論」を配置し、1年次で学んだ知識をもとに各器官の疾病とその回復の促進を学ぶとともに、社会保障制度の意義や、保健医療福祉の場で連携・共同する各専門職の役割を理解する。

3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。

これを踏まえ、1年次では「看護学概論」「ヘルスプロモーション」などを配置し、看護学の主要な概念について学ぶ。2年次では「看護過程」「看護倫理」「ヘルスアセスメント」などを配置し、適切な看護を実践するために必要な理論、基礎的な看護技術、倫理を学ぶ。また、2年次から3年次にかけて、成人ヘルスケア、老年ヘルスケア、小児ヘルスケア、ウイメンズヘルスケア、精神ヘルスケア、地域・在宅ヘルスケア、公衆衛生看護学に関してそれぞれの概論及び方法論を学び、3年次後期からの臨地実習に向けた知識と技能の習得を行う。また、保健医療福祉の場における連携・協働について学ぶ「多職種連携論」を配置する。さらに、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように4年次に「国際保健看護学」を配置する。

3. 専門的知識と科学的思考に基づき看護を主体的に実践するために専門教育科目の講義・演習・実習科目を系統的に配置します。専門教育科目は『基盤看護』『臨床看護』『子どもと家族の看護』『地域看護』『看護の統合』の5つの科目群で編成します。健康、不健康を問わずその人らしい健康な生活を支える看護としてヘルスケアを学ぶ科目「ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ・Ⅱ」「小児ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」「成人ヘルスケア方法論Ⅰ・Ⅱ」などを配置します。看護を探究し創造的に思考する力をつけるために「看護研究入門」「看護研究演習」を、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように「国際保健看護学」を配置します。講義・演習では、授業形態に応じてICTの活用、アクティブラーニングをはじめとした多様な学習方法を取り入れます。

これを踏まえ、1年次では「看護学概論」「ヘルスプロモーション」などを配置し、看護学の主要な概念について学ぶ。2年次では「看護過程」「看護倫理」「ヘルスアセスメント」などを配置し、適切な看護を実践するために必要な理論、基礎的な看護技術、倫理を学ぶ。また、2年次から3年次にかけて、成人ヘルスケア、老年ヘルスケア、小児ヘルスケア、ウイメンズヘルスケア、精神ヘルスケア、地域・在宅ヘルスケア、公衆衛生看護学に関してそれぞれの概論及び方法論を学び、3年次後期からの臨地実習に向けた知識と技能の習得を行う。また、看護を探究し創造的に思考する力をつけるために3年次に「看護研究入門」を、4年次には看護学実習の経験を通して自ら研究課題を発見し、研究する「看護研究演習」を配置する。さらに、地域の視点とグローバルな視点から健康課題を考えられるように4年次に「国際保健看護学」を配置する。

4. 略	4. 略
略	略
<p>5. <u>保健医療福祉分野における情報通信技術 (ICT) を正しく活用できる基礎的な知識・技術を身につけるために、基盤教育科目『情報・数理』の科目群に「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」を選択必修科目として配置し、専門基礎教育科目に「看護情報学」を配置します。これらの知識・技術を活用し、「看護研究入門」「看護研究演習」「看護の統合実習」で、看護を探究し創造的に思考する力を養います。さらに、ICT 活用の拡大に伴い重要となる看護を探究するために、専門教育科目に「情報通信技術と看護」を配置します。</u></p>	
<p><u>これを踏まえ、1・2年次では情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質である情報活用能力の育成のために基盤教育科目『情報・数理』の科目群に、コンピュータの活用を学び、ICT に対応できるように、「コンピュータ科学」「コンピュータ活用Ⅰ・Ⅱ」「情報リテラシー」「プログラミング」といった情報処理能力を養成する科目を選択必修科目として配置する。これらの科目を学び、医療・看護情報の特徴、情報活用、医療現場における実践的な取り組みについて理解するために、2年次に「看護情報学」を配置する。さらに看護の探究にいかん情報通信技術を活用するかを理解するために3年次に「看護研究入門」を、4年次に「看護研究演習」「看護の統合実習」を配置する。また3年次および4年次の専門教育科目の臨地実習での経験を踏まえて、保健医療福祉分野における情報通信技術の活用拡大に伴い重要となる看護を探究する</u></p>	

ために4年次後期に「情報通信技術と看護」を配 置する。	
--------------------------------	--

(改善事項) 看護学部 看護学科

3. 本学の入学者選抜について、社会人・帰国生徒を対象とした「特別選抜」を設けた上で募集人員を2名としているが、社会人と帰国生徒を分けて選抜を行うのか、分けずに併せて選抜を行うのか判然としないことから、明確にすること。その上で、社会人と帰国生徒を分けずに併せて選抜を行う場合、受験資格が異なり、バックグラウンドも大きく異なることが想定される両者を公平・公正に評価・判定できるのか疑義があることから、選抜方法の妥当性について具体的に説明すること。

(対応)

社会人・帰国生徒を対象とした「特別選抜」は、社会人と帰国生徒を分けて選抜を行うこと及びそれぞれの募集人員を明確にするために、入学者選抜の種別及び試験内容、募集人員の表を、次のとおり改める。

種別		試験の内容	募集人員
学校推薦型選抜	全国推薦	書類審査、小論文審査、面接	12人
	地域推薦	書類審査、小論文審査、面接	23人
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接	35人
	公立大学中期日程	大学入学共通テスト、書類審査、面接	8人
特別選抜	社会人	書類審査、小論文審査、面接	1人
	帰国生徒	書類審査、小論文審査、面接	1人

※志願状況によっては、募集人員が増減することがある。

また、特別選抜（社会人）及び特別選抜（帰国生徒）におけるアドミッション・ポリシーとの関係表を、次のとおり改める。

種別		試験内容		AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
特別選抜	社会人	書類審査	履歴書	○				
			調査書	○		○		
		志願理由書		○		○	○	
	小論文審査		○	◎				
	面接			○	○	○	○	
帰国生徒	書類審査	履歴書	○					
		調査書	○		○			
		志願理由書		○		○	○	

	小論文審査	○	◎			
	面接		○	○	○	○

◎特に重視する要素／○重視する要素

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新		旧																																			
設置の趣旨等を記載した書類 39 ページ X 入学者選抜の概要 2. 入学者選抜 (1) 入学試験の区分及び募集人員等		設置の趣旨等を記載した書類 38 ページ X 入学者選抜の概要 2. 入学者選抜 (1) 入学試験の区分及び募集人員等																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>試験の内容</th> <th>募集人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校推薦 型選抜</td> <td>全国推薦 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>地域推薦 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一般選抜</td> <td>前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">特別選抜</td> <td>社会人 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>		種別	試験の内容	募集人員	学校推薦 型選抜	全国推薦 書類審査、小論文審査、面接	12人	地域推薦 書類審査、小論文審査、面接	23人	一般選抜	前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接	35人	公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接	8人	特別選抜	社会人 書類審査、小論文審査、面接	1人	帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接	1人	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>試験の内容</th> <th>募集人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校推薦 型選抜</td> <td>全国推薦 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>地域推薦 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">一般選抜</td> <td>前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>特別選抜</td> <td>社会人・ 帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>		種別	試験の内容	募集人員	学校推薦 型選抜	全国推薦 書類審査、小論文審査、面接	12人	地域推薦 書類審査、小論文審査、面接	23人	一般選抜	前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接	35人	公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接	8人	特別選抜	社会人・ 帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接	2人
種別	試験の内容	募集人員																																			
学校推薦 型選抜	全国推薦 書類審査、小論文審査、面接	12人																																			
	地域推薦 書類審査、小論文審査、面接	23人																																			
一般選抜	前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接	35人																																			
	公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接	8人																																			
特別選抜	社会人 書類審査、小論文審査、面接	1人																																			
	帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接	1人																																			
種別	試験の内容	募集人員																																			
学校推薦 型選抜	全国推薦 書類審査、小論文審査、面接	12人																																			
	地域推薦 書類審査、小論文審査、面接	23人																																			
一般選抜	前期日程 大学入学共通テスト、小論文審査、書類審査、面接	35人																																			
	公立大学 中期日程 大学入学共通テスト、書類審査、面接	8人																																			
特別選抜	社会人・ 帰国生徒 書類審査、小論文審査、面接	2人																																			
※志願状況によっては、募集人員が増減することがある。																																					
設置の趣旨等を記載した書類 42 ページ X 入学者選抜の概要 2. 入学者選抜 (3) 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係は以下のとおりである。 ※表は、別添資料 16 のとおり。		設置の趣旨等を記載した書類 41 ページ X 入学者選抜の概要 2. 入学者選抜 (3) 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係は以下のとおりである。 ※表は、別添資料 16 のとおり。																																			
設置の趣旨等を記載した書類 43 ページ		設置の趣旨等を記載した書類 42 ページ																																			

<p>X 入学者選抜の概要</p> <p>2. 入学者選抜</p> <p>(3) 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係</p> <p>略</p> <p><u>特別選抜(社会人)及び特別選抜(帰国生徒)</u>は、AP1を履歴書と調査書の書類審査及び小論文審査、AP2を志願理由書の書類審査、小論文試験及び面接、AP3を調査書の書類審査及び面接、AP4とAP5を志願理由書の書類審査及び面接の測定結果にて総合的に評価することで入学者を選抜する。なお、<u>特別選抜(社会人)及び特別選抜(帰国生徒)</u>については、小論文審査のAP2を重点的に測定、評価する。</p>	<p>X 入学者選抜の概要</p> <p>2. 入学者選抜</p> <p>(3) 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係</p> <p>略</p> <p><u>特別選抜(社会人・帰国生徒)</u>は、AP1を履歴書と調査書の書類審査及び小論文審査、AP2を志願理由書の書類審査、小論文試験及び面接、AP3を調査書の書類審査及び面接、AP4とAP5を志願理由書の書類審査及び面接の測定結果にて総合的に評価することで入学者を選抜する。なお、<u>特別選抜(公立大学中期日程)</u>については、小論文審査のAP2を重点的に測定、評価する。</p>
--	--

(是正事項) 看護学部 看護学科

4. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を基幹教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として基幹教員が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

教員資格審査において「保留」となった授業科目は、科目名相違によるものであるため、再度、適切な科目名を記載したうえで、基幹教員による再判定審査を受ける。

「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目については、2人の教員が担当する科目が該当する。このうち、1人の教員については、就任辞退の申出があったため、新たに基幹教員(教授)を補充し、当該就任辞退を行った教員の担当科目全部について新規に審査を受ける。

もう1人の教員については、職位を講師から助教に変更したうえで再判定審査を受ける。当該教員が単独で担当していた科目はないが、一部の科目で以下のとおり見直しを行う。

科目名	対応	備考
健康と生活習慣	第1回目を中嶋恵美子教授が担当する。 第15回目を中嶋恵美子教授と共同で担当する。 その他の回は、当初の申請内容のままとする。	オムニバス 共同(一部)
スタートアップゼミ	基幹教員22人で担当する。	オムニバス 共同(一部)
看護管理と医療安全	第1回目を塚原ひとみ教授が担当する。 第15回目を塚原ひとみ教授と共同で担当する。 その他の回は、当初の申請内容のままとする。	オムニバス 共同(一部)
看護の統合実習	科目責任者を末永陽子准教授に変更する。	共同
看護研究演習	基幹教員24人で担当する。	オムニバス 共同(一部)

以上のとおり、「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目については、すべて基幹教員で対応する。

なお、「不可」となった授業科目は、なかった。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新							旧								
教育課程等の概要							教育課程等の概要								
略	授業科目の名称	略	基幹教員等の配置				略	略	授業科目の名称	略	基幹教員等の配置				略
			教授	准教授	講師	助教					教授	准教授	講師	助教	
略							略								
略	健康と生活習慣	略	1			<u>1</u>	略	略	健康と生活習慣	略	1		<u>1</u>	略	
略							略								
略	スタートアップゼミ	略	8	6	<u>8</u>		略	略	スタートアップゼミ	略	8	6	<u>9</u>	略	
略							略								
略	生活援助技術	略	2	2	<u>3</u>	<u>2</u>	略	略	生活援助技術	略	2	2	<u>4</u>	<u>1</u>	略
略							略								
略	ヘルスアセスメント	略	2	2	<u>3</u>	<u>2</u>	略	略	ヘルスアセスメント	略	2	2	<u>4</u>	<u>1</u>	略
略							略								
略	基礎看護学実習Ⅰ	略	2	2	<u>3</u>	<u>12</u>	略	略	基礎看護学実習Ⅰ	略	2	2	<u>4</u>	<u>11</u>	略
略	診療援助技術	略	2	2	<u>3</u>	<u>2</u>	略	略	診療援助技術	略	2	2	<u>4</u>	<u>1</u>	略
略	基礎看護学実習Ⅱ	略	2	2	<u>3</u>	<u>12</u>	略	略	基礎看護学実習Ⅱ	略	2	2	<u>4</u>	<u>11</u>	略
略	総合看護技術演習	略	8	6	<u>8</u>	<u>14</u>	略	略	総合看護技術演習	略	8	6	<u>9</u>	<u>13</u>	略
略							略								
略	看護管理と医療安全	略	1			<u>1</u>	略	略	看護管理と医療安全	略	1		<u>1</u>	略	
略							略								
略	看護の統合実習	略	8	6	<u>8</u>	<u>1</u>	略	略	看護の統合実習	略	8	6	<u>9</u>	略	
略	看護研究演習	略	9	6	<u>9</u>		略	略	看護研究演習	略	9	6	<u>10</u>	略	
略							略								

(是正事項) 看護学部 看護学科

5. 「教員名簿」の調書番号13の教員は「看護研究実習」を担当することになっているが、当該科目は基本計画書の「教育課程等の概要」や「教員個人調書」において見受けられないことから、適切に修正するとともに、書類間の整合性を確認すること。

(対応)

「教員名簿」の調書番号13の教員が担当する科目について、「看護研究実習」となっていたが、正しくは、「教育課程等の概要」及び「教員個人調書」において記載している「看護研究演習」である。

教員名簿における当該教員の担当授業科目の名称の修正を行う。

(新旧対照表) 教員名簿

新	旧
教員名簿7ページ 調書番号⑬の教員の「担当授業科目の名称」の欄	教員名簿7ページ 調書番号13の教員の「担当授業科目の名称」の欄
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> スタートアップゼミ※ 多職種連携論※ 生活援助技術※ ヘルスアセスメント※ 基礎看護学実習Ⅰ 診療援助技術※ 基礎看護学実習Ⅱ 総合看護技術演習※ 感染看護 多職種連携実習 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> スタートアップゼミ※ 多職種連携論※ 生活援助技術※ ヘルスアセスメント※ 基礎看護学実習Ⅰ 診療援助技術※ 基礎看護学実習Ⅱ 総合看護技術演習※ 感染看護 多職種連携実習 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 看護の統合実習 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 看護の統合実習 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 看護研究演習※ </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 看護研究実習※ </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 災害看護 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 災害看護 </div>